

## NAT+使用時の注意点

2020年6月 初版

FITELnet装置のWAN側インタフェースにてNAT+変換を行う場合に、NAT+変換対象をip nat list anyで設定すると、FITELnet装置が自局送受信するパケットがNAT+変換対象となりますのでご注意ください。ISAKMPパケットがNAT+変換対象となり、IPsecSAを確立できなくなるケースがございます。

ip nat list anyを使用する場合には、次のように自局送受信パケットが、ip nat list anyの対象から除外されるように設定を行ってください。

### ☆NAT+変換の設定

#### ★自局送受信パケットをNAT+変換対象外とするための設定

```
!  
ip nat pool 1 <A.B.C.D> <A.B.C.D>☆  
ip nat list 1 any☆  
!  
interface Port-channel 1  
ip address 10.0.0.1 255.255.255.0  
ip nat inside source list 1 interface☆  
ip nat inside source static 10.0.0.1 10.0.0.1★  
#FITELnet装置が送信する送信元アドレス10.0.0.1のパケットについて、変換後の  
送信元アドレスを10.0.0.1とするStatic NATを設定:  
NAT+変換対象から除外  
ip nat inside destination static 10.0.0.1 10.0.0.1★  
#FITELnet装置が受信する宛先アドレス10.0.0.1のパケットについて、変換後の  
宛先アドレスを10.0.0.1とするStatic NATを設定:  
NAT+逆変換エントリとマッチするのを除外  
exit  
!
```

※上記設定により自局送信パケットをNAT+変換対象から除外する対策は、F220/F221ではV01.01(00)以降のファームウェア、F2500ではV01.03(00)以降のファームウェアにて、それぞれ可能です。